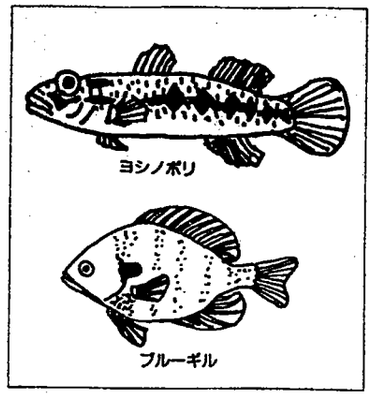
ふかまちのまど
第八十九号　発行元　深町　町内会連合会
連絡所　☎六三―三八八七
二〇〇一年十月一日

高平川と藤井川の魚たち (12)

元深小校長　小林　龍一郎

深町に大きな川が二つあると教えられたのは、何時だったか。着任当時は何の不思議もなく、その人のユーモア（高平川と藤井川）を信じていた。

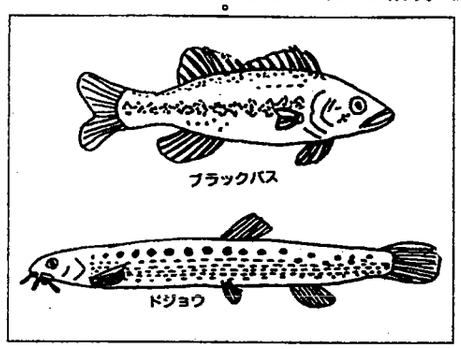
深町の自然を語るとき、母なる川を取り上げないわけにはいかない。そして川の主役はいうまでもなく魚たちである。深町の川の流れを見るとき、田圃の石垣の一つひとつと、そこに流れる網の目のような水路に、先人の並々ならぬ知恵と汗を思わずにはおれない。その水が集まって小川となり、そして藤井川となって松永湾へとそそぐ。



学校付近の川で魚をとり、歩き回った時が懐かしい。上組の川や、岡本さん宅北側の堰で釣った魚。そして、腕白たちが釣ってきてくれた魚。その魚たちの名前を上射場さんに教えてもらい、飼育の方法について相談し、丁寧な指導をいただいた。学校の水槽は母なる川の魚たちであふれていた。

また、あの大雨の後の濁流の中で魚たちはどのようにいきぬいたのだろうか、と不思議に思ったこともあった。

懐かしい魚たちをあげてみると、オイカワ（コイ科）、カワムツ（コイ科）、ムギツク（コイ科）、タカハヤ（コイ科）、オヤニラミ（スズキ科）、スジシマドジョウ（ドジョウ科）、メダカ（メダカ科）、ブルーギル（サンフィッシュ科）、オオクチバシ（サンフィッシュ科）、ドンコ（ハゼ科）、ウナギ（ウナギ科）、ヨシノボリ（ハゼ科）、その他淡水熱帯魚等。



御調坂の一滴の水は、やがて川となって土や石を運んだ。そこに人々の知恵と汗が加わり、今私たちが暮らしているこの肥沃な大地を作りだした。

この恵みぶかい自然に対し、先人は常に畏敬の念と感謝の気持ちを持ちつづけた。そして、地の神に豊作を請い、水神様を祭って水に感謝した。即ち、ふるさと深町の文化をつくりあげてきたのである。悠久のときを流れてきた川を思い、そこで生きてきた先人の努力と生活を思い、文化を偲ぶことで川は今も私たちに多くの安らぎを与えてくれる。

昨年の11月――ふかまちの自然への想いー「ジョウビタキ」から始まって一年間、深町の豊かな自然に触れた思い出を掲載させていただきました。今回で12回の連載を終了させていただきます。改めてつたない観察記を読んでいただきましたことに感謝申し上げます。

その間いろいろなご意見をいただき、また遅々として進まない筆（キーボード）に励ましをいただいたおかげで最終回を迎えることができました。子どもたちの健全な成長と地域の皆様のご健勝を祈念いたしております。ありがとうございました。▲▲

深町の皆様へ

如水館高等学校校長　田中　啓之

深町の皆さん　こんにちは！

平素は本校の教育に格別のご理解とご支援をいただいていることに対し、厚くお礼申し上げます。

さて、熱い熱い夏も過ぎ、甲子園大会から早くも一ケ月余が経過しましたが、あの熱い戦いはわれわれの脳裡にはつい昨日のことのように憶い出されます。

広島県大会では、一戦ごとに調子をあげ、日頃の猛練習の成果を十二分に発揮することができました。これも偏えに地域の皆様の応援があったからこそ成し得たものでした。

さらに、甲子園出場に際しましては心暖まる激励をいただき、その上沢山の浄財をお寄せくださり、誠にありがとうございました。選手をはじめ関係者一同心から感謝申し上げます。

本大会では、皆様方の期待に充分応えることはできませんでしたが、選手はこの体験を糧に一層の精進を重ねる覚悟でおります。

今後とも変らぬご声援をくださいますようお願いいたします。

夏期惣仏さん終る

下組町内会

下組町内会では、猛暑の最中でしたが恒例により、八月十九日大通寺住職様をお迎えして、惣仏法要（講）を開きました。

週半ばの猛暑ということで三十人弱の方のお参りでした。

下組では、これからも従来からの行事を大切に続けていきたいと思っています。

深小学校だより

日増しに秋も深まり、秋桜の花が風にゆれる美しい季節となりました。

学校では、運動会も終わり、各学年の学習に力を入れているところです。運動会では、朝早くからご観覧いただきありがとうございました。

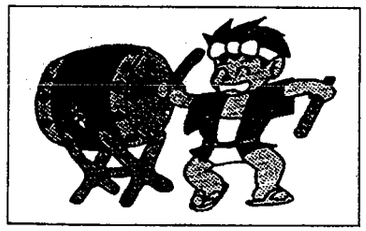
午後からの町民運動会で披露する六年生の深町太鼓おどりも、壮青会や子ども会の方々に教えていただきました。

六年生になったら深町太鼓踊りを教えていただけるというのが定着し、子どもたちはとても楽しみにしているようです。教えていただく方々には、昼間のお仕事でお疲れのところをご指導いただき、誠にありがとうございました。

高学年は、総合学習等で深町の文化についても学習する予定で、よいきっかけになったと思います。

今学期は、十一月十七日（土）に、子どもたちが総合学習をしている所を地域の方々や、保護者の方々に見ていただくようご案内いたしますので、ぜひおいでください。

春田



展望席

太郎谷バイパス開通（九五年八月）、如水館高校深町移転（九四年四月）、特別養護老人ホームサンライズ大池開設（九六年十二月）、深町を大く変えた社会資本や民間資本だが、人口も大きく増えた。太郎谷バイパス開通前の95年四月の人口九四四人が、01年九月には一・一〇五人と一六一人、一七％の増加。おかげで小学校も複式にならずに済んだ。▼中之町との境界付近では新しい団地が造成され、真新しい家屋も出来つつあり頼もしい。世帯数も三百をオーバーした由（町内会加入世帯）。人口が増えたことも喜ばしいことだが、新しくこの地に居を構えられた方が、町内会行事に積極的に参加して下さること。中でも尚寿会、子ども会、町内会のお世話をして下さることは何にも増して嬉しい。▼お隣の中之町では、町内会に入らない方や、入っていても脱退される方も結構居られるそうで、これにはいろいろ理由はあると思うが、人は所詮一人では生きて行けない。互助があって初めて後顧の憂いを絶つことができるのではなかろうか。▼結果として「深町に住んでよかった」と、実感できる町にしたいし、してほしい。そのためには、長年この地に住んでいる者は、新しく来られた方の思いを謙虚に聞く寛大さと、新しい町づくりへ向けて協調が何より大切。口論しながら過ごすも一生、楽しく談笑しながら過ごすのも人生。

♧　◆　♤　♥　♧

謹んでお悔み申し上げます

★秋永トミヨ様　九三歳　八月三〇日

深町各種団体十月行事予定

◆小学校・幼稚園
▼社会見学――四日
▼体重測定（幼）――五日
▼同　低学年――九日
▼同　高学年――一〇日
▼ピヨピヨハウス（幼）――一二日
▼遠足（幼）――一六日
▼英語を楽しもう（ALT来校）――一九日
▼テーマタイム――二〇日
▼参観日――二五日
▼お楽しみ会（幼）――三一日

◆女性会
▼親睦会
上――一一日
中――一日
下――一四日

◆町内会連合会
▼市民体育大会準備（テント張り）――一三日
▼市民体育大会――一四日
▼敬老会――二八日

◆子ども会
▼市子連創作大会参加　二一日

☆千川神社祭りは二〇日です。

深町歴史散策 (12)

山中学園如水館

高崎　壽郎

如水館の正門前に立つと、塀の上に掲げる可愛いい「天使の子の像」が、来校者を迎えてくれる。

学園が、閑静で緑豊かな自然環境に恵まれた深の里に居を移したのは、平成六年（一九九四）の秋だった。

前身は、永い歴史と伝統の三原工業高等学校と緑ヶ丘女子商業高等学校である。中学校は平成九年（一九九七）開校。

現在、高校生約千三百名、中学生約百九十名の男女が在学し、勉強や部活動に精を出している。

今春着任された第三代田中啓之（けいし）校長は、教育の目標を「本校の建学の精神『水の如くなくてはならない人になれ』を基本にして、社会に出て役にたつ人物を育てたい。生徒一人ひとりの個性を伸ばすことをめざし、日々の授業やクラブ活動を通してその実践化に努めていきたい」と、話しておられる。

如水館は、クラブ活動が目覚ましい。

今夏は、野球部が二年ぶり四回目の甲子園へ出場しよく健闘した。女子駅伝部は、昨冬三年連続三回目の都大路行きを果した。サッカーも有望である。

その他、陸上でインターハイに出場する者も多いし、吹奏楽、ロボット競技、簿記なども全国大会へ参加している。又、中学昨年チァリーダー部が、ジャパンカップで見事優勝した。

如水館は、徐々に文武に秀れた学園として、世間から評価されてきている。

学園を訪れると、先生も生徒もよく挨拶をされる。実に気持ちがよい。このことが校外へも拡がっていくと、もっとよいのだが。

是　校

田中校長は、今全国的な教育課題になっている「地域に開かれた学校づくり」を強調される。そして、「如水館を地域との連携の中で育てていってほしい」と言われる。

そのために、学園内の施設の有効な利用やスポーツ大会（野球、サッカーなど）や教育講演会への招待などを考えられているが、水明祭（六月）サンライズ大池祭り（七月）盆行事（八月）運動会（九・十月）秋祭り（十月）市民体育大会（十月）県道の清掃、各クラブの発表会など、学園と町がお互いの行事などを通して、ふれあい、交流を深めていきたいものである。尚、カってこの付近からイ草（畳表の原料）を染める良質な染土（イ泥といった）と、石州瓦によく似た瓦を生産していた。▲▲

甲子園の土を踏んで

多感な高校生として、二年ぶり四回目の夏の甲子園出場を果した如水館高校。思い出として球場の砂も持ち帰ったことだろう。手にした砂の感動を出場した生徒の皆さんに綴ってもらった。

影山　徹彦
甲子園に行けてよかった。代走しか出てなかったけど、本当にうれしかった。

小澤　龍馬
甲子園に行ったことで、最高の思い出ができた。

後藤　友則
甲子園に出て、最高のプレイができた事がいい思い出になった。

津守　幸司
甲子園でプレー出来、本当にみんな感謝している。

森下　裕
三年間努力して甲子園に行けてよかった。

白濱　悠一
いろんな事があって思い出に残った。盲腸が痛かった。

山根　康太
甲子園でプレー出来たことに感謝し、この経験を生かしたい。

福江　剣太
最高に楽しかった。

瀬王　由太
最高の舞台で野球ができたことを誇りに思う。

田中　大輔
来年につながる経験をさせてもらいました。

岩本　貴宣
甲子園に出た事を自信にし、来年またあの場所に立ちたいと思う。

柳瀬　明宏
感動の夏、甲子園ありがとう。

江川　博隆
応援してくれたみんなに感謝します。

福江　剣太
最高に楽しかった。

上谷　亨氏
甲子園は最高でした。

河野　広勝
みんなといた夏、よかった。

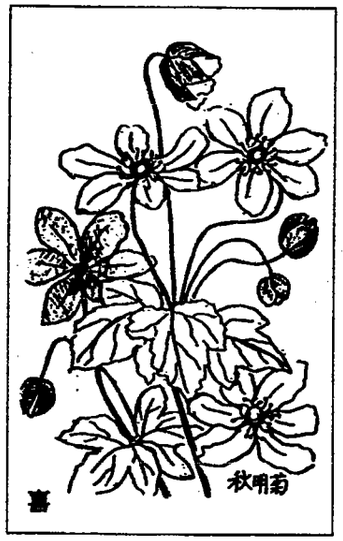
大脇　慎吾
野球で青春できた。

中国・朝鮮航路の思い出 (1)

秋本　俊之

当時（昭和十二年前後）の日本の社会状況は、日支事変が勃発して、国内には総動員法が制定され、国民の経済的活動、職業選択も制限され、自由に職業を選ぶ事も出来ない状態でした。

国の全ての施策が戦時一色となり、子ども達も小・中学生時代の生活状況、大学生時代の学徒動員法に依る徴兵、一般社会生活を営む各階層の考え方も戦時一色になり「ぜいたくは敵だ」のスローガンを掲げ、戦争に対する中傷が少しでもあれば、「特高警察」が取り上げ、厳しく詮策・断罪され、国賊のレッテルが貼られる時代でした。



村内でも、軍の動向を語ったということで周囲から批判をあびし、その人は終に気狂いにされました。

尾道方面でも山陽道に弾丸道（現在の国道二号線）建設のため、強制疎開させられ、家財道具は田舎の知人宅に預けた。個人財産も戦争遂行のため強制的に取り上げられ、材木も軍用材の名目で強制伐採された時代でした。

町内でも「赤紙」（招集令状）が配達され、出征する日には町内総出で久山田まで、又、尾道駅まで見送りに行きました。

町内会連合会活動報告

九月十三日（木）、役員及び体育委員　合同会議

一、町民運動会について

イ種目と出場目やすし人数決定

連合会担当の七種目と、種目毎の出場目やす人数を予定した。

ロ役員の役割分担

体育委員を中心に子供会・PTAの応援も得て、準備（五人）、進行・招集（十人）、スタート・ゴール（四人）、参加賞配布（五人）、放送（一人）を決定した。

二、市民体育大会について

広川体育部長が概要説明した。

連合会事務局

中組町内会行事報告

「二十三夜」実施

八月二十三日（木）恒例の行事を実施した。

内容は次のとおり

法要　（午後五時～六時）

太鼓踊り（六時半～七時）

獅子舞（七時～七時半）

手踊り（七時半～八時）

ゲーム（八時～八時半）

太鼓踊りでは上組　幸谷益雄氏の指導で「なで踊り」も踊った。

獅子舞は、十年ぶりの登場なので、初めて見る人も多かった様子。

ゲームでは、二百個用意した景品が少し残る位の人出だった。

伝統文化としての郷土芸能が廃れる現状です。次代に残したいものです。　中組文化部

又、戦勝祈願のため、村内企業や、各種団体は千川神社に祈願参拝に行きました。

私の中学（旧制）時代は、日支事変が勃発し、中国と日本が戦争状態に突入し、国を挙げて戦時一色となり、一年生のときから登校下校はゲートルを巻いたものです。

自転車通学も上級生に出会えば「敬礼」を強要され、欠礼すれば直ちにビンタを食らう厳しさでした。

学校も軍隊より現役軍人が派遣され、正規の授業の中に「教練」の時間が週に何時間か設定され、軍事教育を叩き込まれました。

高学年になると、福山にあった陸軍四十一連隊で一週間くらい泊り込みで軍事訓練を受け、軍人精神を叩き込まれました。

又、美ノ郷町の池田山に陸軍演習場があり、福山四十一連隊の兵隊さんが山中で、数日間訓練を受ける時は、美ノ郷・深町の民家に数人割当てられて宿泊し、朝になると一定の場所に集まり演習場に向かいました。▲▲